

まだ見ぬ土地に思いを馳せて

地図で始まる空想の旅

出かけるだけが、旅じゃない！

地図さえあれば、時間も空間も超えて、未知の世界へ旅立つことができるのだ。地図を使った空想旅行の達人、今尾恵介さんにその面白さを聞いた。

地図研究家

今尾恵介

●いまお・けいすけ 1959年神奈川県生まれ。日本地図センター客員研究員、地図情報センター評議員、日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。『今尾恵介の地図読み練習帳100問』（平凡社）など、地図に関する著作多数。

空想旅行は地形図で

——地図を見ながら空想旅行をしようという際に、まず用意するものといえは？

なんとといっても地形図ですね。地形図が、現地の風景を想像するのにいちばん適した地図なんです。等高線や地図記号など、さまざまな情報

を手がかりに土地の様子を思い浮かべる——これが、地図の上を旅する醍醐味です。

——地形図は、どこで手に入るのでしょうか。

置いてある店が減ってしまいました。置いている店が大きい書店ならあります。地形図のような、一枚の紙に印刷された地図を買うのは、山をやる人か地図マニアくらいだし、以前

は公共工事使われていた分がほとんどデジタルになったこともあって、最盛期の昭和五十年代には年間約九百万枚以上売っていたのが、いまでは六十五万枚程度まで縮小してしまいました。紙には紙なりのよさがあるんですけど、近ごろは、地図といえばネットやスマホで見えるほうが大多数なんですよ。

——地形図は見方が難しいという先

入観も、あるかもしれません。見るときのコツなどはありますか？

地図は「習うより慣れる」で、もう慣れるしかありません。

——となると、最初は自分がよく知る場所や、地元で地形図から入るのがいいのかもしれないね。

それがいちばんのポイントで、地形図の情報と、自分が知っている風景を結びつけることができれば、ほかの場所でも応用できるようになります。

——そうすると、一気に楽しみが広がります。今尾さんの『地図マニア 空想の旅』（集英社）には、昔の地図を使った空想の話がたくさん出てきますが、古い地図を入手する方法は？

僕の場合は地図専門の古書店を利用することが多いんですが、とにかく大量の地図が雑然と並んでいるの

で、興味のあるものならほとんど買っていく僕のような人間ならともかく、特定の場所をピンポイントで探すのには向いてない。

なので、よほどのマニアじゃない限りは、国土地理院の地方測量部で過去の地図を閲覧し、そこでお目当てのものをコピーするのがいいと思います。地方測量部は、関東や東北、中部など、各地方にあって、明治時代のものから現在売られている一冊前の版まで閲覧できますし、老眼で細かい地図を見るのはちょっと……という人でも、パソコンの画面で拡大しながら見られるので、おすすめです。

紙ではないんですが、埼玉大学の谷謙二先生がウェブ上で公開している「今昔マップ」(*)も、いいですよ。画面の右側はグーグルマップ、左側には同じ場所の古い地図がくる

ようになっていくんですけど、新旧の地図を対比させることができるので、自分がよく使う駅が昔は田んぼだった、なんていう変化がよくわかります。

古い地図には土地の過去の様子が記されているという意味で、アーカイブ的に楽しめるのが魅力です。

廃線跡をたどるなら

——空想旅行をするにあたっては、地図のどこに注目しますか？

場所にもよりますが、旧道とか、昔ながらの集落に自然と目が行きま

すね。集落が古いか新しいかは、家の並び方や街区の様子でだいたいわかるもので、家が均等に並んでいるのは戸建ての分譲地の特徴だから比較的新しいことが多く、不規則に曲がる

*「今昔マップ」 <http://ktgjs.net/kjmapw/>